

2023年度新人研修、見直しが必須

2020年1月にコロナ禍が始まり、3年以上が経過しました。

ということは、2023年大卒新入社員は1年生の冬にコロナ禍が始まったことになります。つまり、大学生活のほとんどをコロナ禍で過ごしてきたのです。

はたして、このコロナ世代新人に対する研修は従来と同様で良いのでしょうか。当然、見直し・修正は必ず行わなければいけません。

では、何を見直すべきなのか。

大学1年時点と大学3年時点での能力変化を調査した結果があります（河合塾グループ等によるPROG）。

普通に考えれば、1年生から3年生の間、経験を積む中で、能力は伸張するのが自然です。確かに、コロナ前の2018年⇒2020年の調査では、9能力全てで伸張が見られました。

しかし、コロナ禍真っ只中の2020年⇒2022年調査では、なんと3つの能力が低下してしまいました（下表）。

低下した能力	
親和力	円満な人間関係を築く（親しみやすさ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成など）
協働力	協力的に仕事を進める（役割理解、連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機づけなど）
行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける（学習行動を含む） （主体的行動・完遂・良い行動の習慣化など）

（学校法人河合塾、株式会社リアセックHP）

いずれも、入社後に必要な能力ばかりです。やはり、コロナ禍でリアルなコミュニケーションが減少した影響は、決して少なくはありません。同調査結果以外にも、低下した能力や姿勢があります。

したがって、コロナ禍による新人への多大なる影響に十分対応した研修にバージョンアップすることは必須でしょう（内容も運営も）。

特にコロナ禍で修得が阻害された各能力を確実にマスターしてもらうことが不可欠です。“一通り教えただけで、できるだろう”は最も避けなくてはなりません。

それでは、現場配属後、上手く実践できないでしょう。その結果、前回提案で申し上げた、高くない自己肯定感がさらに下がってしまいます。最悪、早期退職を生みます。

弊社では、コロナ禍による学生への影響を踏まえた新人研修のメニューを豊富に揃えています。もちろん各社様の個別事情にカスタマイズいたします。

是非、ご興味ある方は、ご連絡を下さい。



> お問い合わせはこちら